

第2回（2020年4月30日）

## 現代中国論 A

1. 毛沢東時代の中国政治
2. 前期鄧小平時代の中国政治
3. 建国70周年記念行事からわかること

1

### 1. 毛沢東時代（1949-1978年）の中国政治

#### （1）全体主義

→ イデオロギーによる政治動員、あらゆる領域での画一化、目的実現のためのテロを正当化（というイメージ）

#### （2）毛沢東と「矛盾論」（矛盾論とは？）

→ 20世紀を代表する革命家

#### （3）混乱する内外政策

① 大躍進と人民公社（大躍進、人民公社とは？）

② 文化大革命（文革）と造反外交

（文革、造反外交とは？）

2

(4) 国際秩序（冷戦構造）への挑戦

①南南協力（バンドン会議）

②中間地帯論から三つの世界論へ

（中間地帯論、三つの世界論とは？）

③中ソ対立と米中正常化

(5) 華国鋒から鄧小平へ

→ 「実践が真理を検証する唯一の方法」、

「二つのすべて」の否定

（「二つのすべて」とは？ 「二つのすべて」はなぜ否定されたのか？また否定によって何がおこったのか？）

3

2. 前期鄧小平時代（1978-1992年）の中国政治

(1) 権威主義

→ 限定された自由、限定された多元主義

(2) 鄧小平と「白猫黒猫論」（白猫黒猫論とは？）

→ 徹底したプラグマティスト

(3) 経済発展を一貫して追求

①南巡講話と「三つの有利」（三つの有利とは？）

②社会主義市場経済

（このような表現を

「使わざるをえなかった」背景は？）

4

- (4) 共産党（統治）への挑戦は断固排除
  - ①「北京の春」の弾圧（北京の春とは？「4つの基本原則」とは？）
  - ②「6.4天安門事件」の武力鎮圧
  - ③後継者（胡耀邦、趙紫陽）の排除
- (5) 党史から「抹殺された」三人の党指導者
  - ①華国鋒（1976-81年、主席）
  - ②胡耀邦（1981-87年、主席、後に総書記）
  - ③趙紫陽（1987-89年、総書記）
- (6) 江沢民を総書記に抜擢（1989.6）

5

### 3. 建国70周年記念行事からわかること

- (1) 2019年10月1日10時から約2時間40分、北京天安門広場周辺で開催。式典の前半は閱兵、後半は大衆パレード
- (2) 習近平以下、全政治局常務委員7名が出席。報道によると、1.5万人の兵士と10万人の大衆が参加。司会は李克強総理
- (3) 衰えが目立つ江沢民元総書記と胡錦濤前総書記。主な古参幹部で姿を見せなかったのは朱鎔基元総理

6

#### (4) 党と習近平のための式典

- ①党旗、国旗、軍旗の順
- ②キーワードは「祖国」、「人民」
- ③「強い」や「愛国主義」の強調（中国中央テレビのアナウンサー発言）、個人崇拜的演出
  - 毛沢東、鄧小平、江沢民、胡錦濤の4人については、「〇〇同志を主な代表とする中国共産党人」としているのに対し、習近平だけが「習近平同志を核心とする党中央」

7

#### (5) 各時代を象徴する表現や成果

- ①毛沢東時代：「中国は立ち上がった」、「人民が主人公になった」、「刻苦奮闘の時代」
- ②鄧小平時代：「中国は豊かになった」、「決定的な決断」、「中国の特色ある社会主義」、「改革開放」
- ③江沢民時代：「時とともに進む」、「一国両制度」（「香港の明日はもっと明るい」（本当？）、「マカオの明日はもっと明るい」）

8

- ④胡錦濤時代：「調和ある社会」、SARSと四川大地震での救援活動(2003年と2008年)、北京五輪(2008年)
- ⑤習近平時代：「中国は強くなった」、「偉大な復興実現」、細かい政策に言及(明るい未来を展望する演出)

9

#### (6) 感想

- ①「強い軍」とそれを実現した共産党を前面、全面に打ち出し
- ②力強い言説とは異なり、展望が開けない米中通商摩擦、混迷を深める香港情勢

#### (7) 単純な疑問

- ①そもそも、軍事パレードをする理由は？
- ②10万とも言われる動員された人々の心中は？  
連休はどうなった？
- ③「税金の無駄遣い」の批判がない理由は？

10